

フィーディングチューブクリア

再使用禁止

【警告】

1. 使用方法

- 1) スタイレットの操作は、慎重に行うこと。【患者の器官損傷及びチューブ損傷のリスクが高くなる。】

【禁忌・禁止】

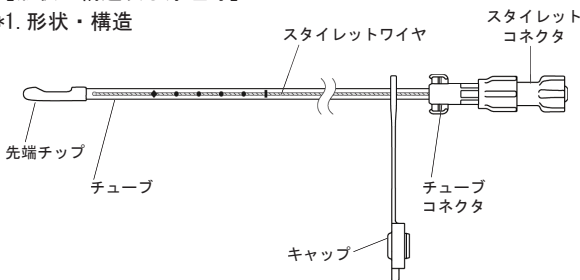
1. 使用方法

1) 再使用禁止

- 2) スタイレットはチューブが正しい位置に留置されたことを確認するまで引き抜かないこと。また、スタイレットの再挿入は行わないこと。[スタイレットの再挿入は、側孔からスタイレットの先端が飛び出し、胃・腸等の消化管壁を損傷させるおそれがある。]
- 3) スタイレットは、チューブ詰まりの解消など本来の使用目的（チューブ留置補助）以外の用途に使用しないこと。

【形状・構造及び原理等】

*1. 形状・構造



チューブコネクタはISO 80369-3（経腸栄養用コネクタ規格）に適合する。
チューブ本体はX線不透過である。

サイズ	有効長	挿入深度マーカ
5Fr (1.7mm)	120cm	目盛り：5～100cmまで1cm毎 数字：10cm毎（100cmまで）
6.5Fr (2.2mm)		
8Fr (2.7mm)		
10Fr (3.3mm)	80cm	目盛り：5～60cmまで1cm毎 数字：10cm毎（60cmまで）
12Fr (4.0mm)		

2. 原材料

チューブ、先端チップ	ポリウレタン
チューブコネクタ	ポリ塩化ビニル
スタイレットコネクタ	ポリプロピレン
スタイレットワイヤ	ステンレス鋼

【使用目的又は効果】

経腸栄養を目的として、鼻咽頭から食道を経由して胃又は腸に留置するX線不透過性チューブである。

【使用方法等】

次に示した使用方法は一般的方法であり、細部については医師各位の臨床経験及び各施設のマニュアルに基づき操作します。

1. 挿入・留置

- 1) 状態に応じて、患者を座位又はファウラー体位にします。
- 2) 包装から本品を取り出します。チューブコネクタにスタイレットコネクタをしっかりと固定し、スタイレット先端が側孔から出ていないことを確認します。挿管中はスタイレットコネクタがしっかりとチューブコネクタに装着されていることを確認してください。

- 3) チューブの深度マーカを用いて鼻孔からの長さを測り、先端チップが目的の位置に達することを確認します。
- 4) 挿管する方の鼻孔を決め、潤滑剤（リドカインゼリー等）をチューブ先端から15～20cmの位置まで塗り、滑りを良くしてから挿入を開始します。
- 5) チューブが患者の喉の奥で曲がっていないことを確認しながら、ゆっくりと鼻腔より進めます。咽頭蓋を通過させた後に、噴門部までチューブを挿入し（40～50cm）、半ファウラー位にし、チューブを胃に沿わせて10～15cm押し進め、幽門部に到達させます。
- 6) チューブ位置の確認は、正確な挿管のために必ず行うようにしてください。ISO 80369-3に適合する注射筒をスタイレットコネクタに接続し、胃内容物の吸引及び気泡音の確認をしてください。胃の内容物の吸引ができない場合は、患者を左側臥位にして、2～3分待ちます。その後、注射筒の内筒をゆっくりと引くようにしてもう一度胃の内容物の吸引を行ってください。
- 7) チューブが動かないよう皮膚表面を清潔にしてから鼻や頬に固定テープ等で固定します。
- 8) 蠕動運動によってチューブを十二指腸や空腸に留置させる場合は、腸に進む距離を考慮し、鼻とテープ止めの間に十分な余裕を持たせてチューブを頬に固定します。患者を右側のファウラー体位にすると、チューブ先端が幽門部を通過し、腸に進みやすくなります。
- 9) チューブの留置完了後にスタイレットを取り外し、経腸栄養剤とセット等を取り付け経腸栄養剤の投与を開始します。

2. メンテナンス

- 1) 経腸栄養剤の投与を中断します。
- 2) チューブの洗浄（フラッシュ）・吸引を行う際は、経腸栄養剤とセットのクランプを閉じてから接続を解除し、注射筒を接続します。
- 3) コネクタに経腸栄養剤等が付着している場合は洗浄・除去し、すぐに接続しない場合はキャップを被せます。
- 4) 経腸栄養剤の投与を再開する場合は、経腸栄養剤とセットを再接続してから、クランプを開きます。
- 5) 経腸栄養剤の投与を中断する際や再投与の前には5～10mLの微温湯等でチューブを洗浄します。チューブは4時間おきに定期的に洗浄するようにしてください。
- 6) 長期間の経腸栄養剤投与を行う場合は、チューブの性能を維持するために、チューブの状態及び患者の状態を見ながら適宜チューブを交換してください。また、鼻孔を交互に使うようにしてください。

3. 抜管

- 1) チューブを抜管するときは、ゆっくり弱く引いては休む手順で慎重に抜きます。
- 2) 使用後は感染防止に留意し、安全な方法で廃棄します。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. 気管壁の損傷並びに気管・肺への誤挿入及び誤留置に注意してください。チューブ挿入時に抵抗が感じられる場合又は患者が咳き込む場合は、肺への誤挿入のおそれがあるため無理に挿入せずに、一旦抜いてから挿入してください。[肺の器官損傷又は肺への経腸栄養剤等の注入により、肺機能障害のおそれがあります。]

- チューブ挿入時及び留置中においては、チューブの先端が正しい位置に到達していることをX線撮影、胃液の吸引、気泡音の聴取又は挿入深度マーカ位置の確認など複数の方法により確認してください。
- スタイレット操作は慎重に行い、抵抗等により抜去できない場合はチューブと一緒に抜去してください。[無理に引き抜いた場合、チューブ損傷のおそれがあります。]
- 抜いたチューブは再使用しないでください。
- チューブには専用スタイレットがセットされていますが、意識があつて協力できる患者等には、必ず使用しなければならないものではありません。
- 鼻孔から留置部位までのチューブの長さは必ず前もって測り、チューブを挿入しすぎないように注意してください。[ねじれによる閉塞のおそれがあります。]
- 挿管中又は意識のない患者、咬咽反応のない患者、衰弱した患者など高いリスクの患者に使用する場合や、幽門通過による十二指腸や空腸の留置時はX線透視下で実施してください。
- 経腸栄養剤の投与前にチューブが正しい位置にあるか確認してください。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 包装を開封後、速やかに使用すること。
- あらかじめ接続部に緩みや液漏れ等がないことを確認してから使用すること。使用中は本品の破損、接続部の緩み、空気混入、経腸栄養剤漏れ及び詰まり等について、定期的に確認すること。
- チューブの挿入、抜管の処置は清潔な場所で熟練した医師の管理下で行うこと。
- 付属の専用スタイレットは他のチューブと組み合わせて使用しないこと。
- 有機溶剤を含む薬剤への浸漬、又は拭き取りを行わないこと。[チューブ、コネクタ等の破損のおそれがある。]
- チューブを折り曲げる、引っ張る等の負荷をかけないこと。[破損のおそれがある。]
- チューブを鉗子等でつまんで傷をつけないように、さらに注射針の先端、はさみ等の鋭利なもので傷をつけないように注意すること。[漏れ、空気混入や破損のおそれがある。]
- 経腸栄養剤の投与の前後は、必ず微温湯によりフラッシュ操作を行うこと。[経腸栄養剤等の残渣の蓄積によるチューブ詰まりを未然に防ぐ必要がある。]
- チューブを介しての散剤等（特に添加剤として結合剤等を含む薬剤）の投与は、チューブ詰まりのおそれがあるので注意すること。
- 経腸栄養剤の投与又は微温湯などによるフラッシュ操作の際、操作中に抵抗が感じられる場合は操作を中止すること。[チューブ内腔が閉塞している可能性があり、チューブ内腔の閉塞を解消せずに操作を継続した場合、チューブ内圧が過剰に上昇し、チューブの破損又は断裂のおそれがある。]
- チューブ詰まりを解消するための操作を行う際は、次のことに注意すること。なお、あらかじめチューブの破損又は断裂などのおそれがあると判断されるチューブ（新生児・乳児・小児に使用する、チューブ径が小さく肉厚の薄いチューブ等）が閉塞した場合は、当該操作を行わず、チューブを抜去すること。
 - 1) 注入器等は容量が大きいサイズ（20mL以上を推奨）を使用すること。[容量が20mLより小さな注入器では注入圧が高くなり、チューブの破損又は断裂のおそれがある。また、20mL以上の注入器を使用した場合にも圧力をかけすぎると破損するおそれがある。]

(2) スタイレット等を使用しないこと。

(3) 当該操作を行ってもチューブ詰まりが解消されない場合は、チューブを抜去すること。

12) 体質等によっては、皮膚刺激（かぶれ、かゆみ）等やアレルギー症状を生じる場合がある。皮膚に異常を生じた場合は使用を中止すること。

13) チューブにスタイレットを装着した状態で、MRI（磁気共鳴画像診断装置）による検査を行わないこと。[MRI使用下における画像の乱れ、又はチューブが移動するおそれがある。]

14) 本品はスタイレットを抜去した状態において、以下のとおりMR検査対応となる。[自己認証（自社データ）による。]

(1) MR Safeであり、一般的なMR検査による影響はない。

2. 不具合・有害事象

1) その他の不具合

- (1) 閉塞、破断、破損
- (2) 詰まり

2) 重大な有害事象

- (1) 器官損傷
- (2) 消化管壁損傷
- (3) 肺機能障害

3) その他の有害事象

- (1) 誤挿入、誤留置
- (2) 体内遺残
- (3) 皮膚刺激（かぶれ、かゆみ）
- (4) アレルギー

3. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

1) 妊婦又は妊娠している可能性のある患者に対しては治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。[本品はX線透視下で操作を行うため。]

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管の条件

水ぬれに注意し、直射日光、高温多湿を避けて保管すること。

2. 有効期間

包装の使用期限欄を参照のこと。

有効期間：滅菌後3年 [自己認証（自社データ）による]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売（お問い合わせ先）

ニプロ株式会社

フリーダイヤル：0120-226-410

受付時間：9:00～17:15（土・日・祝日を除く）

製造

ニプロ株式会社



ニプロ株式会社